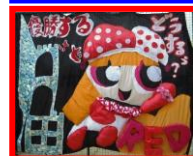


# 三十一期生 卒業

三学年主任 山本信吾

御卒業おめでとうございます。長かったような短かったような、あれもやっておけば良かったとかいろいろな感情が入り混じって、不思議な気持ちで一杯です。まず、この一年間を振り返ってみます。

最後の体育祭は、全団立派にやり遂げることができました。しかし、道のりは決して楽なものではありませんでした。応援団の危機。本当にどうなるか見当もつかない事態でした。でも、生徒たちは我慢し、いろいろなことを受け入れ、一生懸命に困難を乗り越えてきました。



越えていきました。大切なことは、ありふれた日常の中で、自分の思いを一つ一つ叶えていくことだと改めて思いました。

文化祭は、舞台発表の劇です。

優勝に向けて、準備が順調に進むクラスもあれば、練習にもなかなか集まらないクラスもありました。避けては通れない大きな壁。そして毎年のように、「自分のクラスはだ



めーといった愚痴を聞きます。それでも生徒たちは毎年、その壁をよじ登ってきます。今年も登りきることができました。やりきった者だけにしか見えないものがそこにあつたと思います。私事になりますが

が、人との「絆」は、本当に糸で繋がっているように思います。中学の時大変お世話になった担任に、「君はきっと哲学の道に進むと思う。だから、しっかりと勉強できる学校に進まないといけないうよ。」と言われました。そして、私は大学で物理学つまり自然界の哲学を学び、教師となったのです。

二十年ほどぶりに電車でお会って、「元気にしてる？」って声をかけられました。「はい、しっかりとやってます。」と答えました。先生も「頑張ってたね」と答えてくれました。

その二ヵ月後、先生は、御病気で入院され永眠されました。二十五年前のことです。



入学式の時にお伝えした三つの思いです。

絆を大切にしたい  
いい思い出を作りたい  
夢を叶えたい

私なりに達成できたと思っています。

一年での泉南里海公園のミニ運動会が始まり、二年の北海道修学旅行、三年の体育祭と文化祭まで、いい思い出を作れました。一緒に過ごしてきた三年間もこれで終わりです。卒業式を以って、高校生活の時計は止まります。そして新しい未来への時計が動きはじめます。生徒たちが自分の夢の実現に向けて更なる飛躍を遂げることを期待しています。

頑張れ！三十一期生。

保護者の皆様、三十一期生に関わっていただいた皆様、本当にありがとうございました。

